

日本看護科学学会が会員による獲得を支援する大型研究計画  
『『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出』  
学術領域変革研究(A)への申請準備における計画研究代表者候補の募集要項

1. 募集趣旨

2020年3月に本委員会で「多様ないのち・くらし・人生を支える社会に向けた『新たなケア学』の創成(仮)」の代表者の募集について」を行いました。3件の申請があり、研究・学術推進委員会による審査の結果、領域代表候補者として山本則子氏(東京大学大学院)が選定されました。

山本氏と研究・学術推進委員会委員でテーマの検討を行い『『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出』のテーマで、「学術変革領域研究(A)」の令和3(2021)年度の公募に挑戦する方針といたしました。今回は、この研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する方の公募を行います。

「学術変革領域研究(A)」に挑戦するうえでは、これまでに卓越した実績を上げている経験豊かな研究者や、実績はまだ少ないものの革新的なアイデアを持ちその実現の機会を切望している研究者、看護学との協働により学術を変革したいという思いを持っている他領域の研究者など、幅広い研究者の参加が必須と考えております。JANS 会員の皆様、他領域の研究分担者を含む革新的な研究計画を着想の上奮ってご応募ください。当初6月に本募集を開始することを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等で大幅に遅延し、申請期間が短くなりましたことをお詫びいたします。

2. 『『生きにくさ』の意味を変容する Meaning Based Healthcare 学の創出』について

1) 領域概要

現代社会では、高齢化の進展、科学・医療技術の進展、格差の拡大、産業構造の変化、地政学的リスクの増大、世界的規模の気候変動、災害や新興感染症の多発、女性の社会的役割の変化、といった社会の変容を引き起こす様々な変化が同時多発的に生じている。変容する社会の中で、障害や疾患などを契機として、あるいは客観的には障害や疾患がないように見えたとしても何らかの原因によって、「生きにくさ」を抱え、他者からの支援を受けながら、あるいは十分な支援を受けることなく長い人生を送る人たちが今以上に増加することが予測される。

ここでいう「生きにくさ」は、例えば慢性疾患や障害を持つ人の機能低下に対して十分な対応策が講じられていない状態、高次脳機能障害の人などが抱える他者からは理解されにくい機能低下による影響、慢性疾患や障害への対応に要する身体・心理・社会・経済的負担、社会の偏見によって人々が受ける不利益など多岐にわたることを想定している。なんらかの障害や疾患を持つ人は「生きにくさ」を抱えやすいが、障害や疾患がある人が必ず「生きにくさ」を抱えるわけではない。また、障害や疾患がなくても「生きにくさ」を抱える人も存在する。

世界の多くの社会は、上記のような「生きにくさ」を抱えた人を疎外・隔離したり「生きにくさ」を甘受させたりする形で成立してきた。世界中の社会が大きな変化を経験する現在、そのような「生きにくさ」を抱えた人たちが包摂していくために、「生きにくさ」の意味を尊重した問題解決を行うための理論や技術とともに、「生きにくさ」の意味を変容・更新させていくための知を生み出し、それらの知・理論・技術を用いて、だれもが各々の立場で最大限幸せに人生を全うできる「Neo-Normalization 社会」を目指すべきである。

本領域(『『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出』)は、上記の「生きにくさ」に対してヘルスケアによってアプローチしていくための、Meaning Based Healthcare 学を創出することで、「Neo-Normalization 社会」の実現を目指す学術領域であり、以下の3つの研究項目から構成する(図1)。

## 2)研究項目の説明

学術変革領域研究では、研究領域を効率的に発展させるため、研究テーマや研究領域における役割などにより、「計画研究」をグループ化した研究項目を設定することができる。本領域では以下の 3 つの研究項目を設定する。

### A. Meaning Based Science(意味を重視する科学)

個々が持つ「生きにくさ」の意味を尊重しながら、「生きにくさ」を解消・緩和していくための方法や技術の開発、一般化できる理論・知見の蓄積などを行い問題解決を目指す研究項目。自然科学、データサイエンス、医学・疫学、その他実証主義的な社会科学分野の研究などの方法論に立脚しながらも、個々の「生きにくさ」の意味を尊重した研究が含まれることが望ましい。

### B. Healthcare Humanity(ヘルスケアのための人文学)

「生きにくさ」の意味を変容・更新するためのヘルスケアを追求する研究項目。哲学、民俗学、現象学、ナラティブアプローチ等の研究方法に立脚しながらも、得られた知見をヘルスケアの実践に活用する視点を持った研究が含まれることが望ましい。

### C. Praxis for Neo-Normalization Society(Neo-Normalization 社会を目指したプラクシス)

A,B による知・理論・技術も活用しながら「生きにくさ」を抱えた人たちを包摂できる社会を実現するための活動・方法を生み出す研究項目。「生きにくさ」を抱えた人たちを包摂するための、アクションリサーチ、普及・実装研究、産学連携、社会起業家との協働、政策提言などに関する研究が含まれることが望ましい。

\*プラクシス：理論と実践が分割できない一つの全体となっていることを示すギリシア語であり、アリストテレスは結果を重んじる製作知(ポイエーシス、テクネー)に対して、プロセスに力点を置く「行為知」(プラークシス、フロネーシス)の意味で用いた(ロルフ, 2017)。価値に動機づけられて看護実践, さらにより大きな社会的・政治的環境を変化させ、不正や不公平をなくしていくプロセス(Chinn, 2018)

#### 引用文献

ゲーリー・ロルフ(2017): 看護実践のアポリア D・ショーン《省察的实践論》の挑戦, ゆみる出版, 東京.

Chinn,P.L. Kramer,M.K.(2018): Knowledge Development In Nursing Theory And Process 10th, Elsevier, Missouri.

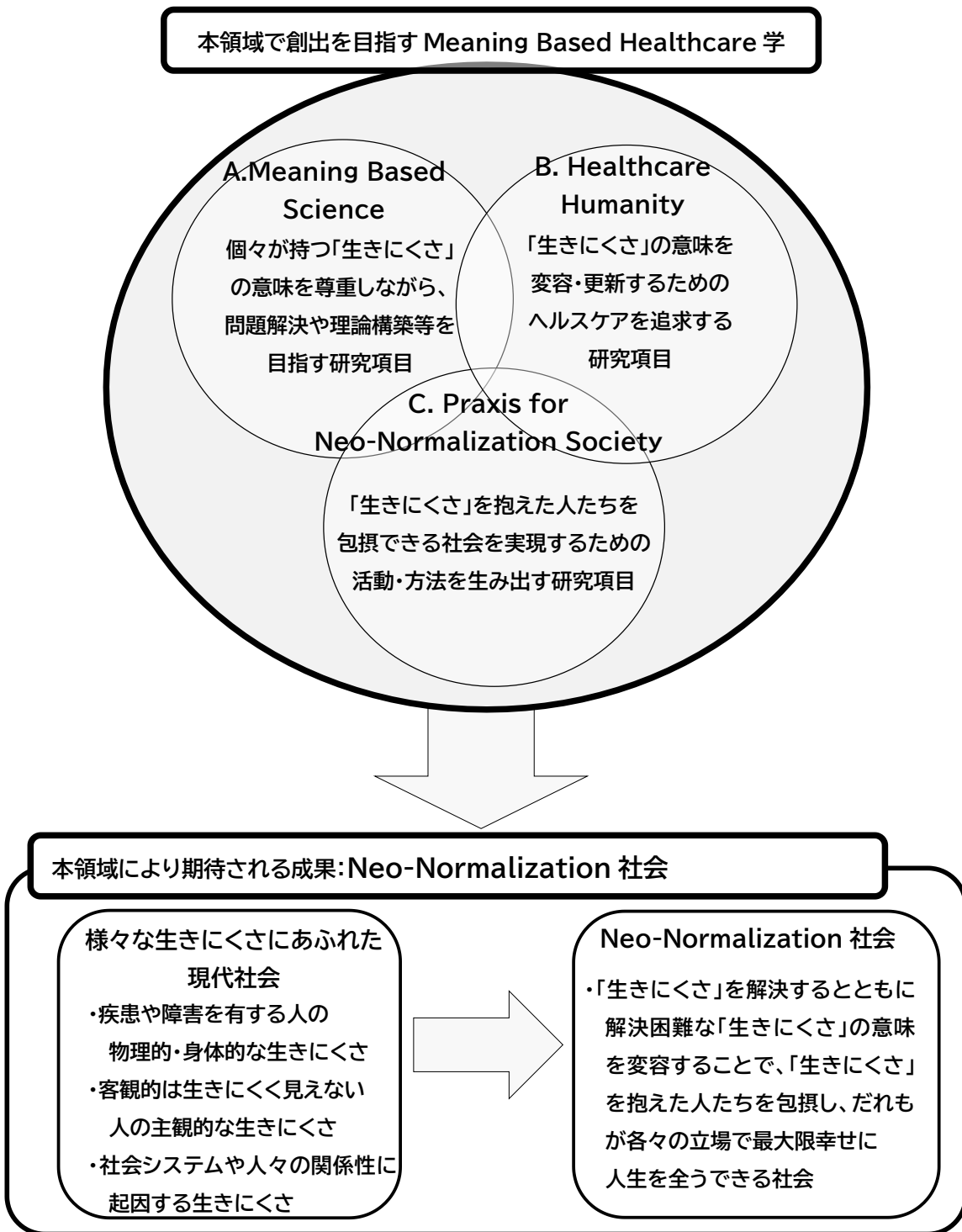


図1. 「『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出 」概念図

## 5. 計画研究代表者の募集手続き

### 1) 申請期間

2020年9月16日(水)～10月9日(金)

### 2) 採用予定人数

6～10名程度

(なお、計画研究代表者の決定には領域代表者の意向を反映する必要があるため、計画研究代表者の決定は募集のみによるのではなく、JANS 会員以外のもも含み、領域代表者による指名により決定される場合もあります。)

### 3) 計画研究代表者の応募者に必要な要件

- (1) JANS 会員であるもの(役員・委員会委員(研究・学術推進委員会の委員を含む)であっても可)。
- (2) 『『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出』の趣旨に沿う計画研究計画を立案できるもの。
- (3) 領域代表者および研究・学術推進委員会とコミュニケーションを円滑にとりながら、総括班の一員として研究活動を遂行できるもの。
- (4) 採択されなかった場合に 2021 年度に引き続き 2022 年度の申請まで 2 年間にわたり継続的に申請を行う意思を有するもの(注 大型研究の採択のためには複数回の申請が必要である場合が多いため。ただし申請者の状況の変化によりやむを得ず申請が行えなくなる場合には 2 年目の辞退も認める)。
- (5) 所属機関にて計画研究の実施に必要な研究マネジメント体制が組めるもの。
- (6) 一定数の国際誌への論文掲載経験を有するもの。
- (7) 一定数の学際的な研究実績を有するもの(共同分野として理工系・人文社会系を問わない)。
- (8) 下記の重複申請の制限に抵触しないもの(下記以外にも、現時点で公開されている、令和 2(2020)年度 科学研究費助成事業 科研費 公募要領 学術変革領域研究(A・B)を十分に確認したうえで応募してください)。

※学術変革領域研究における主な重複制限(詳細は令和 2(2020)年度 科学研究費助成事業 科研費 公募要領 学術変革領域研究(A・B)別表1重複制限一覧表を参照)。

- ・総括班、計画研究(代表者、分担者)ともに、学術変革領域研究に応募できる課題は一つのみである。
- ・総括班、計画研究(代表者、分担者)ともに、学術変革領域研究(A)と学術変革領域研究(B)との重複応募はできない。
- ・総括班(代表者)は、特別推進研究(代表者)との重複応募はできない。また、計画研究(代表者)は、特別推進研究(代表者)との重複受給はできない(特別推進研究が優先する)。

### 4) 申請書類の提出

計画研究代表者として応募する場合には、「計画研究代表者 申請書」に必要事項を記載し、期限内に JANS 事務所にメール添付にてお送りください(office@jans.or.jp)。

「計画研究代表者 申請書」の各項目記載に当たっては「令和 2(2020)年度 科学研究費助成事業 科研費 公募要領 学術変革領域研究(A・B)(応募書類の様式・記入要領)」の学術変革領域研究(A)の研究計画調書(計画研究) 作成・記入要領も参照してください。

#### 5) 審査方式

研究計画代表者の決定は、申請書をもとに領域代表者、研究・学術推進委員会と理事会にて行います。採否は申請者に直接通知いたします。

#### 6) 研究計画の統合の打診について

複数の申請書に共通点があり、領域代表者・研究・学術推進委員会が、複数の研究計画を1つの計画研究として統合することが本領域の発展に寄与すると判断した場合、申請者に、①他の計画研究へ分担研究者として参加すること、②他の申請者を分担研究者に追加すること、などを打診させていただく可能性があります。打診を受けてもご意向に沿わない場合お断りいただくことが可能ですが、申請時点でこれらの打診について希望されない方は申請書の該当欄にチェックをお願いします。不明な点があれば事務所 (office@jans.or.jp) にお問い合わせください。

日本看護科学学会 研究・学術推進委員会  
 『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出  
 計画研究代表者 申請書

研究名(現時点で構想している研究名を 40 文字以内で記載してください。)		
所属機関	所在地	〒 ー
	名称	
申請者	部局	
	職位	
	氏名	
	生年月日	
希望する研究項目 (申請する計画研究を A～C のどの研究項目として位置付けたいか、希望する記号に○をつけてください)		
A. Meaning Based Science(意味を重視する科学) B. Healthcare Humanity(ヘルスケアのための人文学) C. Praxis for Neo-Normalization Society(Neo-Normalization 社会を目指したプラクシス)		
研究計画、研究方法など①(400 字程度で記載) (申請者が構想している計画研究が何をどのように、どこまで明らかにして研究領域(『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出)の推進に貢献しようとするのかについて記載してください)		
研究計画、研究方法など②(400 字程度で記載) (申請者が構想している計画研究の着想に至った経緯と準備状況、関連する国内外の研究動向と本研究の位置付けについて記載してください)		
国際誌への過去 5 年間の査読付き論文の掲載件数 (文献リストを別添資料として添付してください。書式は問いませんが、これまでの研究の国際的インパクトを評価するため各論文の“Journal Impact Factor(Thomson Reuters 社 Journal Citation Reports の 2019 年の値)”を記載してください。国際誌への論文掲載が重視されないとされる分野においてはこの項目は重視せずに評価いた	(       )件	

<p>しますので、「研究遂行能力」の箇所を国際誌の論文掲載以外の分野での実績に基づきお書きください。）</p>		
<p>研究遂行能力(400 字程度で記載)          (申請者の研究遂行能力を示すため、申請者のこれまでの研究活動を簡潔に記載してください。学術論文や著書の書誌情報を示す必要はありません)</p>		
<p>学際的研究の経験(400 字程度で記載)          (申請者の学際的研究能力を示すため、申請者のこれまでの学際的研究活動を簡潔に記載してください。学術論文や著書の書誌情報を示す必要はありません)</p>		
<p>研究分担者となる予定の研究者とその役割          (計画研究の研究分担者となる予定の共同研究者を最大 3 名お書きください。研究分担者の人数が多い場合、学術領域変革研究(A)では、卓越した業績を有する学際的な研究者を多数含むことが必要と思われるため、看護学以外を専門とする研究者を優先的に記載してください。)</p>		
氏名	申請者とのこれまでの共同研究の概要	計画研究において期待される役割
<p>分担研究者となることを依頼したいが申請者から依頼することが難しい研究者(任意)          (分担研究者となることで本領域への著しい貢献が期待される卓越した業績を有する研究者で、申請者から共同研究の依頼を行うのが難しい場合、日本看護科学学会 研究・学術推進委員会が依頼を支援することを検討しています。以下、支援を希望する研究者を最大 3 名までお書きください。状況により支援ができない場合もあることをご了承ください。)</p>		
氏名	その研究者の研究の概要	計画研究において期待される役割
<p>研究計画の統合の打診について          (他の計画研究の研究分担者になることや、自身の計画研究に他の申請者を追加することの打診を受けてもよいかどうかを回答してください)</p>	<input type="checkbox"/> 打診を受けてもよい <input type="checkbox"/> 打診を受けたくない	

(各欄の大きさは自由に改変していただいて構いません)

- 学術変革領域研究(A)に関する重複制限に抵触する応募予定はない。
- 採択されなかった場合に 2022 年度の申請まで 2 年間にわたり継続的に申請を行う意思がある。